

— eヘルスリテラシーの概念整理と関連研究の動向—

○^{みつたけせいご}光武誠吾¹⁾²⁾, ^{しばたあい}柴田愛³⁾, ^{いしいかおり}石井香織³⁾, ^{おかこういちろう}岡浩一郎³⁾

¹⁾早稲田大学大学院スポーツ科学研究科、²⁾地方独立行政法人東京都健康等寿医療センター研究所(東京都老人総合研究所)、³⁾早稲田大学スポーツ科学学術院

【背景】幅広い年代でインターネット上の健康情報の利用が日常化している一方、利益目的や不確実な健康情報を発信しているウェブサイトが増加していることが問題視されている。インターネットを個人や集団の健康維持、増進のために用いることを eヘルスと呼び、インターネット上の健康情報を適切に活用する個人の能力(eヘルスリテラシー)を向上させることが eヘルスを推進していくために必要であるが、eヘルスリテラシーは比較的新しい概念であるため、その役割について検討した研究は少ない。

【目的】本研究では、eヘルスリテラシーという用語や概念が近年、どのように用いられているかを明らかにするため、先行研究より eヘルスリテラシーの概念整理と活用方法を概観することを目的とした。

【方法】“eHealth literacy”と“eHealth literacy Scale (eHEALS)”というキーワードで 2011 年 2 月までに公刊された論文を MEDLINE で検索し、抽出された 23 件の論文と eHEALS を尺度として用いて研究を行った 2 件の論文から、eヘルスリテラシーについての概念整理と活用方法を明らかにした。

【結果】eヘルスリテラシーについて記述していた論文は 11 件あり、2006 年に Norman らが Lily model を提唱して以降の論文は全てこのモデルに基づいていた。Lily model は、広い意味での情報源を活用するために必要な能力である慣習的リテラシー・計算力、メディアリテラシー、情報リテラシーと、より特異的な情報源を活用するために必要な能力であるコンピューターリテラシー、科学リテラシー、ヘルスリテラシーの 6 つのリテラシーから構成される(右上図

参照)。また、eヘルスリテラシーの活用方法としては、HIV 治療に対する自己管理能力の改善や重篤な疾患を呈した子どもを持つ親の情報収集能力の向上を検討するために用いられていた。

【考察】今後もインターネットの普及が見

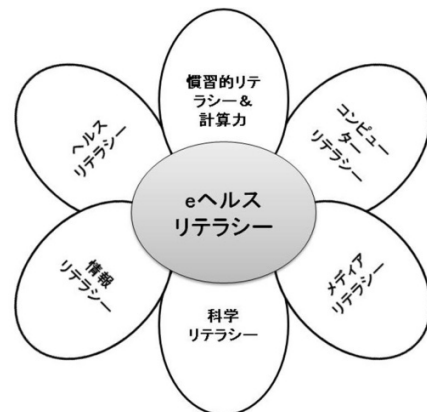


図. eヘルスリテラシーLily model
参考: Norman, et al. 2006

込まれるため、eヘルスの推進が個人や集団の健康維持、増進を促進する上で重要となる。eヘルスを適切に推進していくため、情報の対象となる個人や集団の eヘルスリテラシーを考慮したウェブサイトの作成や eヘルスリテラシーの向上を目的とした介入方法を検討していく必要がある。

【結論】近年用いられている eヘルスリテラシーの概念は Lily model に基づいており、eヘルスの推進のために eヘルスリテラシーが果たす役割は大きい。

ヘルスコミュニケーションや健康情報管理に詳しい先生方のご参加をよろしくお願ひ申し上げます。

【連絡先】

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科
mitsu@tmig.or.jp
TEL & FAX : 04-2947-7106